

緑の風

JR東労組 NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2023年12月5日 No.53

東中野事故から35年

■東中野事故が「責任追及から原因究明へ」の安全哲学確立のきっかけに

1988年12月5日、運転士を含む2名が亡くなり、多くの負傷者を出した「東中野事故」が発生しました。今年で35年を迎えます。

1987年の会社発足当時、わずかな列車遅延でも乗務停止やボーナスカットが行われ、危険を感じながらも運行を優先する職場風土がありました。JR東労組は「事故撲滅宣言」を発出し、「事故や災害が予測される時は躊躇することなく、列車を止めましょう」と呼びかけましたが、その1カ月後に東中野事故が発生してしまいました。



以降、人間は間違いを起こすものであることを前提に労使で議論を深め、事故から謙虚に学ぶ「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を確立しました。

■責任追及の風土を再度改めるためには「職場からの挑戦」が必要！

しかし昨今、人間性を否定する懲罰的な日勤教育や、背後要因を踏まえずに決められたことさえ守れば良いという風潮、事象の隠蔽など、安全確立とは真逆の職場実態があります。そして、感電死亡事故や電化柱との衝突事故、相次ぐ触車未遂など、命に関わる事故・事象が頻発しています。このような状況だからこそ、事象発生時はすぐに原因究明委員会を開催し、みんなで原因を究明し、みんなで対策を打ち立て、みんなで実践することが必要です。「職場からの挑戦」を全組合員で積み上げ、安全風土を再確立しましょう！

安全風土を再確立するため、

本音の議論ができるJR東労組に結集し、声を上げよう！